

第4節 ITガバナンス、システムリスク管理態勢及びサイバーセキュリティ

I ITガバナンスに関する対話

取組の詳細は「2024 事務年度金融行政方針（実績と作業計画）」のⅡ. 1. (6). ⑤（1ポツ）¹参照。

II システムリスク管理態勢の強化

取組の詳細は「2024 事務年度金融行政方針（実績と作業計画）」のⅡ. 1. (6). ⑤（3、4、5、6ポツ）²参照。

III オペレーショナル・レジリエンス

取組の詳細は「2024 事務年度金融行政方針（実績と作業計画）」のⅡ. 1. (6). ⑤（2ポツ）³、及び「金融機関のシステム障害に関する分析レポート」（令和6年6月公表）の別紙2⁴参照。

IV 金融機関システム・フロントランナー・サポートデスク

「金融機関システム・フロントランナー・サポートデスク（以下「同サポートデスク」）」では、旧基幹系システム・フロントランナー・サポートハブから引継いだ支援プロジェクト1件を終了し、2024年7月に最終報告書を公表（残り1件は支援を継続中、資料1参照）。

V 金融分野におけるサイバーセキュリティ強化に関する取組

取組の詳細は「2024 事務年度金融行政方針（実績と作業計画）」のⅡ. 1. (6). ③参照。なお、当庁が主催している「金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習（Delta Wall）」の参加金融機関数の推移は以下のとおり。

	2021年 Delta Wall VI	2022年 Delta Wall VII	2023年 Delta Wall VIII
参加金融機関数	150	160	165

¹ <https://www.fsa.go.jp/news/r6/20240830/resultsandplans.pdf#page=49>

² <https://www.fsa.go.jp/news/r6/20240830/resultsandplans.pdf#page=49>

³ <https://www.fsa.go.jp/news/r6/20240830/resultsandplans.pdf#page=49>

⁴ <https://www.fsa.go.jp/news/r5/sonota/20240626/01.pdf#page=87>

(旧)基幹系システム・フロントランナー・サポートハブ支援状況 (資料1)

	申込者	支援決定/終了	案件概要
1	静岡銀行	<ul style="list-style-type: none">2020年4月支援決定2021年10月支援終了	オープン系技術を活用した記帳決済システム導入でハードウェア・ソフトウェアの自由選択を可能とすること、コンポーネント化したシステムの疎結合化により外部サービスへの機動的な接続を可能とすること等を検討。
2	第一生命	<ul style="list-style-type: none">2020年6月支援決定2022年5月支援終了	既存の契約管理機能を中心とした基幹系システムについて、コアとなる顧客・契約データの管理・保存等をオン・プレミス環境に残しつつ、外部連携・データ分析等に関する機能をクラウド基盤に構築することで、新たなサービス実現と運用の効率化の両立を図る。
3	みんなの銀行 ゼロバンク・デザイン ファクトリー	<ul style="list-style-type: none">2021年5月支援決定2023年1月支援終了	勘定系システムを、マイクロサービスの疎結合型構成で、パブリッククラウド (Google Cloud Platform) 上にアジャイル開発することで、柔軟性や拡張性を実現。さらに、API接続を通じて金融機能等を他の事業者にも提供するBaaS型ビジネスを目指す。
4	横浜銀行	<ul style="list-style-type: none">2021年5月支援決定2024年6月支援終了	外部サービスや銀行の営業関連のシステムと勘定系システムを連携するための基盤(オンラインデータ連携基盤)を設け、この部分を「戦略領域」と位置づけ、柔軟かつ低コストでの機能追加を実現する一方、勘定系システムは「非戦略領域」と位置づけ、オープン系システムへの転換でコスト削減を図るとともに、機能追加は厳選して追加コストを抑制する。
5	西京銀行	<ul style="list-style-type: none">2021年9月支援決定	基幹系システムを、メインフレーム上で稼働する共同利用型から他行で稼働実績のあるクラウド型パッケージに更改することで、システムベンダーに依存しない自行主体のシステム開発を行い、開発コストの低減やフィンテック等の新サービスの柔軟な取り込みを図る。